

公益社団法人日本義肢装具士協会

2026 年度 事業計画

(2026 年 5 月 1 日～2027 年 4 月 30 日)

事業概要

本会の事業は、講座事業、災害支援事業、学術大会、研修セミナー、国際支援活動事業、学術誌・白書の発行など、臨床現場において対象者に質の高い適合技術を提供するため、義肢装具士の資質の向上、専門知識の向上を図ることにより、対象者の社会参加と社会的理解の促進が直接的目的であり、ひいては国民の保健・医療・福祉に寄与することを目的としている。

I. 公益目的事業

1 義肢装具をはじめとした福祉用具を必要とする者の生活の質の向上に資する事業

1-1 講座事業

本事業では、国民に対し、義肢装具等の福祉用具を必要とすることが非日常ではないことや、義肢装具等の福祉用具を使用しながら良質な日常生活を送ることに対する理解を深め、対象者の日常生活の質の向上を目的として実施する。

1) 市民公開講座（学術大会の開催に関する事業）

第 32 回学術大会において、市民公開講座を開催する。（7月5日予定）

- ・「少年スポーツのコンディショニング（仮）」
- ・「義手と歩む、これまでとこれから ～北海道出身の元パラアスリート辻沙絵のユーザーストーリー～（仮）」

2) 教育機関等への義肢装具啓発プログラム（障がい者、義肢装具士の啓発に関する事業）

教育機関等からの要請を受けて、上期 1 回・下期 1 回の年度 2 回程度の実施を予定。

1-2 災害時支援事業

本事業では、国内外の自然災害・紛争等の被災地域において被災生活を送る者への生活支援及び義肢装具等の福祉用具の供給に関する支援を各行政機関や関連団体と連携して実施する。

1) 一般社団法人日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）の構成団体としての取り組み（大規模災害被災者支援に関する事業）

理事会、各委員会への理事および委員の派遣、有事の際の人員派遣、福祉用具調達支援の調整、マニュアルの整備を行う。

2) ミャンマー難民切断者支援（大規模災害被災者支援に関する事業）

ミャンマー難民切断者に対する義肢供給、製作設備の拡充、人材育成等の支援を見据えた調査および準備を行う。

2 義肢装具をはじめとした福祉用具に関する学術・技術の向上、研究開発及びその成果の普及・振興に資する事業

2-1 学術大会

本事業では、義肢装具等の福祉用具に関する学術を普及・発展させ、臨床に役立つ知識と技術を向上させる目的で、教育講演並びに対象者に関する医療、リハビリテーション及び日常生活面での支援について臨床経験又は学術経験を有する者の研究成果発表、及び最新機器等の情報提供を行う。

1) 学術大会（学術大会の開催に関する事業）

2026年7月4日（土）、5日（日）札幌市教育文化会館（北海道支部）

2-2 研修セミナー・講習

本事業では、義肢装具士に対する教育を目的として研修会を実施する。義肢装具士が義肢装具等の福祉用具に関する最新技術又は知識を学び、臨床において従来から実施している医療技術を応用発展することで、対象者へより良質な医療技術の提供を実現する。また、義肢装具士養成教育の質の向上を目的として臨床実習指導者講習会を実施する。

1) 義肢装具士に対する教育セミナー（研修セミナーに関する事業）

- ・2026年6月20日（土）オンラインWEB セミナー、担当：全国セミナー

義肢装具業界のこれまでとこれから～義肢装具士の未来のためにできることは？～

- ・2026年9月19日（土）～21日（月・祝）実技セミナー、担当：研修委員会南日本支部

坐骨収納型ソケット実技セミナー ライナー編

- ・2026年10月17日（土）対面・オンライン、担当：研修委員会東北支部

足病医学に基づくインソールの製作における理論と実践

- ・2026年10月3日（土）実技セミナー、担当：研修委員会西日本支部

P0が訓練用下腿義足を作る前にできること - ギプスソケットの採型～適合まで -

- ・2026年12月12日（土）対面座学、担当：研修委員会中部日本支部

義肢装具に使用するカーボンの特性と使用例

- ・2027年2月27日（土）、28日（日）実技セミナー、担当：研修委員会東日本支部

TSB式下腿義足の再考～断端袋のみで成立させる適合理論と製作技術～

- ・タスク・シフト／シェア研修会ーフットケア・足病分野ー

eラーニング受講期間 2026年5月1日～8月31日

実技研修会（北海道地区） 2026年9月12日、13日

実技研修会（東北地区） 2026年11月14日、15日

2) 養成教育推進のための講習会

- ・臨床実習指導者講習会

2027 年 2 月 実施予定 担当：養成教育委員会

2-3 新たに資格を取得した者に対する教育及び専門技能教育

本事業は、新たに義肢装具士の資格を取得した者に対し、義肢装具士の業務について理解を深め、義肢装具士が対象者にとって医療技術を習得した専門家としての支援者になるための育成カリキュラムを提供する。また、義肢装具士はそれぞれの専門分野における臨床能力を高めていくことが社会的にも求められている。このニーズに対応するため、専門領域ごとに「専門技能コース」を開催する。

1) 生涯学習・標準カリキュラムの実施（生涯学習に関する事業）

- ・義肢装具士免許を取得して 5 年以内の者を対象として、Web 方式および対面式にて新人プログラム、一般プログラム（臨床コース、研究基礎コース）を開講する。

2) 専門技能コースの実施（生涯学習に関する事業）

- ・標準カリキュラムを終了した者を対象として、Web 方式および対面式にて専門領域ごとに「専門技能コース」を開催する。

3 国際協力及び貢献に資する事業

3-1 国際支援活動事業

本事業は、福祉用具に関する技術及び使用に関して発展・開発途上にある国又は地域の人々に対する支援として、海外在住の対象者(国籍問わず)に対し、日本の福祉用具に関する最新医療技術を提供する義肢装具士の活動に対して助成するもので、義肢装具士の技術及び臨床経験を活かして、海外の対象者の日常生活の質の向上及び福祉用具の普及・発展を図るための、国際協力・国際貢献事業である。

1) 国際支援活動助成の実施（国際交流及び国際支援に関する事業）

国際支援活動助成の申請がなされた場合、支援活動の内容、費用等の審査を行う。

3-2 関連団体との連携・支援事業

本事業では、医療技術関連団体と連携協力し、国内外の福祉用具に関する医療技術の普及・発展に貢献できるよう活動を行う。行政機関、独立行政法人、公益法人及び公益性のある団体が実施する学術、教育、講演、国際支援などの活動に対し、学術・技能向上のための提携交流、業務の受託、支援活動、助成等を行うことがある。

- 1) 各地域における（一社）日本義肢協会、（一社）日本義肢装具学会等の義肢装具関連団体との協力・協働事業の実施

4 義肢装具をはじめとした福祉用具に関する刊行物の発行及び調査研究事業

4-1 学術誌「PO アカデミージャーナル」

福祉用具に関する学術論文集として、学術大会等で発表され、その研究成果について討議された義肢装具士の優れた研究論文及び義肢装具士の職域に関連する学術情報を特集記事として提供する学術誌を発行する。

1) PO アカデミージャーナルの発行（学術誌の編集に関する事業）

- ・ 34 巻 1 号（令和 8 年 6 月 1 日発刊予定）
- ・ 34 巻 2 号（令和 8 年 9 月 1 日発刊予定）
- ・ 34 巻 3 号（令和 8 年 12 月 1 日発刊予定）
- ・ 34 巻 4 号（令和 9 年 3 月 1 日発刊予定）

4-2 白書の発行

対象者へのより質の高い福祉の増進を実現するため、福祉用具に関する実態を調査し、義肢装具士の技術の展望を検証する。医療領域、福祉領域、労災領域等核領域における福祉用具の需要と供給の実態調査や義肢装具士の実態調査及び展望など、各テーマにそった調査・編集を行い、白書として刊行する。

1) 義肢装具士白書 2028 の発刊（義肢装具士白書編集委員会）

発刊に向けた企画立案の実施

II. その他の事業（相互扶助等事業）

1. WEB サイトでの会員限定の情報提供
2. 各支部（地域）での会員管理や運営方法についての会議
3. 会員表彰
4. 全正会員を対象とした義肢装具士賠償責任保険制度

III. 理事会・総会等の開催

1. 理事会

- 1-1 2026 年 6 月開催 : 2025 年度決算及び事業報告の決議
- 1-2 2026 年 9 月 開催 : 業務執行理事による各事業の進捗確認
- 1-3 2026 年 12 月 開催 : 業務執行理事による各事業の進捗確認
- 1-4 2027 年 3 月 開催 : 2027 年度事業計画案及び予算案の決議、2027 年度の総括

2. 総 会

- 2-1 定時社員総会 2026 年 7 月開催予定 : 2025 年度計算書類の承認等

以上